

デジタル技術が可能にする古代美術のあらたな鑑賞体験

《デジタル法隆寺宝物館》

東京国立博物館にて1月31日より開室

文化財活用センター〈ぶんかつ〉と東京国立博物館は、2023年1月31日(火)より、東京国立博物館 法隆寺宝物館に、通年で鑑賞できる展示室《デジタル法隆寺宝物館》を開室します。



《デジタル法隆寺宝物館》は、常時展示がかなわない法隆寺ゆかりの名宝を、デジタルコンテンツや複製でくわしく鑑賞、体験する展示室です。2023年1月31日からは法隆寺献納宝物(けんのおほうもつ)である国宝「聖徳太子絵伝(しょうとくたいしえでん)」を、8月1日からは「法隆寺金堂壁画(こんどうへきが)」をテーマに、臨場感あふれるグラフィックパネル(複製)と、大型8Kモニターで絵の詳細まで自在に鑑賞できるデジタルコンテンツを展示します。また、仮面や装束の当初の姿を考証した復元模造では、かつて人々を魅了した伎楽(ぎがく)という芸能の色鮮やかな世界観にふれることができるでしょう。

▼《デジタル法隆寺宝物館》WEB サイト▼

https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_exhibition/index.php?controller=dtl&id=34

【報道内覧会のご案内】

2023年1月30日(月)10:00~12:00の時間帯に、本展会場にて報道内覧会を開催します。ご来場いただけます場合は、別途詳細および申込用紙をお送りしますのでお問合せください。

《デジタル法隆寺宝物館》開室後半年間のみどころ [2023年1月31日～2023年7月30日]

デジタル技術が可能にする古代美術のあらたな鑑賞体験

みどころ① 70インチ8Kモニターでくわしくみる国宝
～鑑賞者の操作で絵画の魅力をじっくり鑑賞～

およそ千年前に描かれた国宝「聖徳太子絵伝」の高精細画像を、大型8Kモニターで鑑賞するデジタルコンテンツ<8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」>を体験できます。本デジタルコンテンツでは、原品ではよくみえない聖徳太子の表情までもが8Kモニターに映し出されます。また、聖徳太子の生涯にわたる50以上の事績から、みたい場面を選んで解説とともに鑑賞するなど、国宝「聖徳太子絵伝」の魅力を8K画質で自在にくわしく楽しめます。



画像①

11歳、雲のように空に浮かぶ(第1面)／国宝「聖徳太子絵伝」(部分)

みどころ② 臨場感あふれる原寸大グラフィックパネル
～絵画の大きさや配置された空間そのものを体感～

かつて奈良・法隆寺の絵殿という建物の内側を飾っていた国宝「聖徳太子絵伝」は、1面およそ縦1.9m×横1.5mの画面を横に並べた計10面からなる大画面絵画です。その原寸大グラフィックパネル(複製)を、法隆寺の絵殿にあったときと同じコの字型の配置に展示しています。国宝「聖徳太子絵伝」にあらわされた雄大な景観と、聖徳太子の生涯を追体験するような空間そのものを体感することができます。

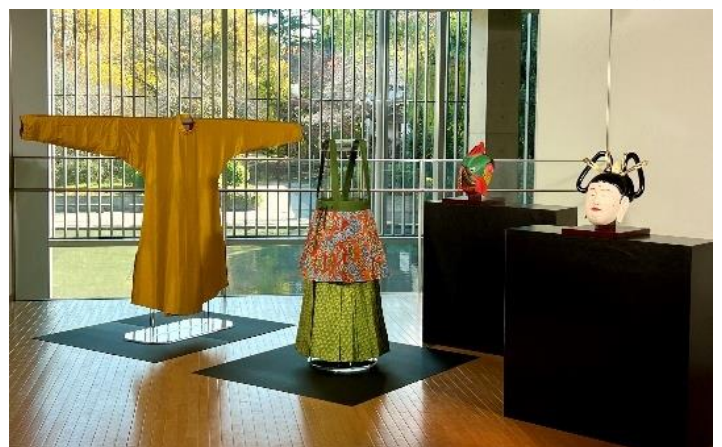


画像②

国宝「聖徳太子絵伝」原寸大グラフィックパネルイメージ ※2018年撮影

みどころ③ よみがえる古代芸能の色とかたち
～伎楽でもちいられた仮面や装束の本来の姿を再現～

飛鳥時代に大陸から伝来した伎楽は、今日では資料より役名を伝えるのみとなった幻の芸能です。現存する伎楽面のほとんどが奈良時代の作であるのに対し、法隆寺献納宝物(東京国立博物館蔵)の伎楽面には、それより古い飛鳥時代の作が含まれています。東京国立博物館と文化財活用センターは、現存する資料から、色やかたちについての検討を重ね、本来の姿を再現した伎楽面と伎楽装束を制作しました。



画像③

復元模造 伎楽面・伎楽装束(半年毎に展示替/ケース内展示)

* 上記は、《デジタル法隆寺宝物館》開室から半年間 [2023年1月31日～2023年7月30日] のみどころです。
* 《デジタル法隆寺宝物館》は半年毎に展示替をします。2023年1月31日の開室後半年間は、法隆寺献納宝物(東京国立博物館蔵)である国宝「聖徳太子絵伝」を、同年8月1日からは「法隆寺金堂壁画」(奈良・法隆寺蔵)をテーマに展示します。
* 《デジタル法隆寺宝物館》の会場内は写真、動画の撮影が可能です。

<8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」>について

8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」 デジタルコンテンツ

*デジタルコンテンツ制作：文化財活用センター、NHKエデュケーショナル／2018～19年
 *日本語・英語に対応しています

画像④

国宝「聖徳太子絵伝」は、かつて法隆寺の絵殿を飾っていた大画面の障子絵です。平安時代・延久元年(1069)、絵師・秦致貞(はたのちてい)によって描かれました。10面からなる横長の大画面に、聖徳太子の生涯にわたる50以上の事績が散りばめられています。数ある聖徳太子絵伝のなかでもっとも古く、初期やまと絵の代表作にあげられます。しかし、長い年月を経て画面のいたみがひどく、肉眼で細部まで鑑賞することはできません。



8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」操作画面

デジタルコンテンツ<8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」>は、本作品の高精細画像を、大型8Kモニターに映し出すアプリケーションです。1面およそ縦1.9m×横1.5mの本作品を、計28区画に分割して撮影し、画像をつなぎ合わせて1面で18億画素の画像データを作成しました。鑑賞者自身の操作により、2面で36億画素という画像データがリアルタイムに処理され、70インチ8Kモニターに表示されます。

国宝「聖徳太子絵伝」のみたい部分を大きく拡大すると、聖徳太子の表情までくわしく確認することができます。聖徳太子の生涯のエピソードから場面を選び、その場面の解説もお楽しみいただけます。およそ千年前に描かれた国宝の絵伝と聖徳太子の魅力を、8K画質でじっくりとご堪能ください。

画像⑤



27歳、黒駒に乗って東国にあそび富士山に登る(第3面)／
 国宝「聖徳太子絵伝」(部分)

画像⑥



12歳、百済の賢者、日羅と会う(第10面)／
 国宝「聖徳太子絵伝」(部分)

国宝「聖徳太子絵伝」

秦致貞 筆／平安時代・延久元年(1069)／綾本着色／10面／東京国立博物館(法隆寺献納宝物)

*原品の展示予定は未定です

聖徳太子(574-622)は用明天皇の第二皇子で、飛鳥時代、推古天皇のもと仏教の興隆や遣隋使の派遣、十七条憲法の制定などに力をつくしました。伝記にあたる『聖徳太子伝暦(でんりやく)』が10世紀に成立したのち、その生涯を絵画化した絵伝が数多く作られました。なかでもこの作品は、現存最古のもっとも優れた聖徳太子絵伝であり、11世紀やまと絵の説話画としても貴重です。かつて法隆寺絵殿の内側を囲った全10面の大画面には、法隆寺のある斑鳩(いかるが)の地を中心に、飛鳥(あすか)や難波(現在の大阪府)、さらに中国・衡山までを見渡す雄大な景観が描かれ、聖徳太子の生涯を追体験するかのような空間を作り出します。

画像⑦



奈良・法隆寺絵殿



法隆寺絵殿内部
 (写真:法隆寺／提供:小学館)



国宝「聖徳太子絵伝」展示風景
 (法隆寺宝物館第6室)※2019年撮影

<「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア>について

「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア デジタルコンテンツ

*デジタルコンテンツ制作：法隆寺、奈良国立博物館、国立情報学研究所高野研究室／2020年
 *デジタルコンテンツ制作協力：文化財活用センター、便利堂
 *日本語・英語に対応しています

画像⑧

7世紀後半から8世紀はじめに制作されたとみられる「法隆寺金堂壁画」は、かつて法隆寺金堂の内壁(外陣)にあった大画面壁画です。昭和24年(1949)1月26日、火災により焼損しました。「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板は、美術印刷会社便利堂によって昭和10年(1935)に撮影されたもので、焼損前の金堂壁画の姿を今に伝えます。



第二号壁 菩薩像／「法隆寺金堂壁画」(部分)

デジタルコンテンツ<「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア>は、363枚ある写真ガラス原板から、専用的高精細スキャナー(1500dpi)で取得した高精細画像を、大型8Kモニターに映します。この高精細画像は、写真ガラス原板1枚を5分割して読み込み、撮影時のレンズの歪みや現像時に生じた濃淡の差などを補正し、複数の画像データを接合したものです。壁画1枚の画像は、大壁で300億画素、小壁で170億画素を超えます。



2020年、<「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア>はオンライン上で公開され、PCやスマートフォンで閲覧可能です。本会場ではそれを70インチの8Kモニターで鑑賞いただきます。仏教美術の至宝と称えられた法隆寺金堂壁画、その線描の美しさを大画面モニターでお楽しみください。

<「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア>をみる <https://horyuji-kondohekiga.jp/>

重要文化財「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」

昭和10年(1935)撮影／ガラス乾板(コロタイプ原板)／363枚／奈良・法隆寺

*原品の展示はありません

画像⑨

大壁4面の四方四仏と、小壁8面に描かれた菩薩の計12面からなる「法隆寺金堂壁画」は、焼損以前より高く評価されていました。当時、古社寺保存会長であり帝国博物館(のちの東京国立博物館)初代総長をつとめた九鬼隆一は、大正9年(1920)刊行の『法隆寺壁画保存方法調査報告書』で、次のように述べています。



第六号壁 阿弥陀浄土図／「法隆寺金堂壁画」(部分)

「法隆寺金堂ノ壁画ハ現今世界ニ知らレタル東洋各国壁画中モ最ク優秀ナル者タルコトハ一般ニ認メラル所(以下略)」

法隆寺の「法隆寺金堂壁画写真ガラス原板」は、便利堂が所有する写真原板(同時に撮影された四色分解写真、赤外線写真など83枚)とともに平成27年(2015)、重要文化財に指定されました。その翌年から5年をかけてクリーニング等の修理がおこなわれたのち、デジタルデータ化が進められました。

画像⑩



重要文化財「法隆寺金堂壁画ガラス原板」



デジタルデータ化作業風景 (提供:便利堂)



「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア 操作画面

<復元模造 伎楽面・伎楽装束>について

伎楽面と伎楽装束 復元模造

伎楽は、飛鳥時代に大陸から伝来した、野外で行なう仮面芸能です。国宝「聖徳太子絵伝」(第5面)には、推古天皇20年(612)、百済(くだら)から帰化した味摩之(みまし)という楽人が、呉(現在の中国)に学んだ伎楽舞(くれのうたまい)を習得していると聞き、聖徳太子は少年を集めて習わせたという場面が描かれています。伎楽は平安時代には廃れ、今日では資料や仮面の銘などにより役名を伝えるのみです。

伎楽面は、法隆寺献納宝物(東京国立博物館蔵)の31面のほか、正倉院や東大寺に伝わります。現存するほとんどが奈良時代の作ですが、法隆寺伝来の伎楽面には、飛鳥時代の作が含まれることが特徴です。

東京国立博物館と文化財活用センターは、2019年に伎楽面(呉女(ごじょ))と(迦楼羅(かるら))を、2021年に伎楽装束(裳(も))と(袍(ほう))の復元模造を製作しました。現存する資料から、色やかたちについて検討を重ね、本来の姿を再現しました。

画像①



41歳、百済国の味摩之(みまし)、伎楽を伝え、これを童子に習わせる(第5面) / 国宝「聖徳太子絵伝」(部分)

重要文化財「伎楽面 呉女・迦楼羅」

飛鳥時代・7世紀 / 木造彩色 / 東京国立博物館(法隆寺献納宝物)

* 原品を含む伎楽面は、法隆寺宝物館(第3室)にて通年展示。法隆寺宝物館(第3室)は毎週金曜・土曜に開室

31面のうち、伎楽で唯一の女性面である(呉女(ごじょ))と、インドの霊鳥である(迦楼羅(かるら))の復元模造です。X線CT撮影や赤外線撮影など多角的な調査を行ない、材質や技法、彩色仕上げを原品に忠実に再現しました。

画像⑫



伎楽面 呉女 (左:原品 右:復元模造)

画像⑬



伎楽面 迦楼羅 (左:原品 右:復元模造)

「伎楽装束 裳残欠・袍残欠」

奈良時代・8世紀 / 「裳」絹製、夾纈、纈纈 / 「袍」絹製(平絹) / 東京国立博物館(法隆寺献納宝物)

* 原品の展示予定は未定です

現在は残欠として伝えられる伎楽装束ですが、原品の解体修理と並行して復元模造を製作しました。修理時の知見を活かし、古代の染織技法を再現したことで、製作当時の華やかな彩りがよみがえりました。

画像⑯



画像⑰



画像⑱



画像⑲



伎楽装束 裳 (左:原品 右:復元模造)

伎楽装束 袍 (左:復元模造 右:原品)

法隆寺と法隆寺宝物館

奈良・法隆寺は、聖徳太子の発願により 7 世紀初頭に建立された名刹です。その西院伽藍(さいいんがらん)のうち金堂・五重塔・中門・回廊などの建物は、現存する世界最古の木造建造物として知られます。明治 11 年(1878)、法隆寺に伝来した宝物 300 件あまりが皇室に献納されました。これらの宝物すべてを収蔵・展示することを目的として、昭和 39 年(1964)、東京国立博物館に法隆寺宝物館が開館し、平成 11 年(1999)の建て替えを経て今日に至ります。

*谷口吉生設計 平成13(2001)年度 建築学会賞受賞



画像⑳ 東京国立博物館 法隆寺宝物館

開催概要

名称 デジタル法隆寺宝物館

会場 東京国立博物館 法隆寺宝物館／中 2 階 (東京都台東区上野公園 13-9)

会期 2023 年 1 月 31 日(火)開室 以降は通年展示 (半年毎に展示替)

開館時間 9:30~17:00

休館日 月曜日 (ただし月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)、2023 年 2 月 7 日(火)は休館

※開館時間・休館日は、東京国立博物館総合文化展に準じます

観覧料 総合文化展観覧料もしくは開催中の特別展観覧料[観覧当日に限る]が必要です

主催 東京国立博物館、文化財活用センター

協力 法隆寺、奈良国立博物館、国立情報学研究所高野研究室

▼「デジタル法隆寺宝物館」WEB サイト▼

https://cpcp.nich.go.jp/modules/r_exhibition/index.php?controller=dtl&id=34

*総合文化展観覧料、一般 1,000 円、大学生 500 円、高校生以下および満 18 歳未満、満 70 歳以上の方は無料。

*大学生の方は、学生証をご提示ください。

*高校生以下および満 18 歳未満、満 70 歳以上の方は、総合文化展について無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。

*障がい者とその介護者各 1 名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

*東京国立博物館のガイドラインに従い感染防止対策を実施します。

*令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト 補助対象事業(独立行政法人日本芸術文化振興会／文化庁)

「デジタル法隆寺宝物館」今後の展示内容

【2023 年 1 月 31 日(火)～2023 年 7 月 30 日(日)】

(デジタルコンテンツ)8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」2018～19年制作

(グラフィックパネル)国宝「聖徳太子絵伝」(原寸) 10面 株式会社サンエムカラー 2022年制作

(複製)伎楽面 呉女 1面 松久宗琳佛所 2019年制作

(複製)伎楽装束 裳 1領 染技連 2021年制作

【2023年8月1日(火)～2024年1月28日(日)】

(デジタルコンテンツ)「法隆寺金堂壁画」写真ガラス原板デジタルビューア 2020年制作

(グラフィックパネル)「法隆寺金堂壁画」(縮小) 12面 株式会社サンエムカラー 2022年制作

(複製)伎楽面 迦楼羅 1面 松久宗琳佛所 2019年制作

(複製)伎楽装束 袍 1領 染技連 2021年制作

*「デジタル法隆寺宝物館」は開室後、半年毎に展示替をします。会場内は写真、動画の撮影が可能です。

ぶんかつ【文化財活用センター】YouTube チャンネルで関連動画を公開！

<https://www.youtube.com/@cpcpnich/playlists>

法隆寺 一よみがえる古代の至宝 1

国宝 聖徳太子絵伝 一よみがえる古代の至宝 2

法隆寺金堂壁画 一よみがえる古代の至宝 3

伎楽と法隆寺宝物館 一よみがえる古代の至宝 4

(動画公開予定日=2023年1月27日)

*音声ナレーション:渡邊あゆみ(NHK アナウンサー)

*音声ナレーションを字幕でご覧になりたい方は設定から言語を選択してください

*字幕は日本語・英語・中国語・韓国語に対応しています



東京国立博物館

明治5年(1872)創立、2022年3月に150周年を迎えた、日本でもっとも長い歴史を持つ博物館です。収蔵する文化財は約12万件。日本から中国、朝鮮半島、西アジア・エジプトまでの地域を網羅し、土器や土偶などの考古遺物から浮世絵や刀剣、甲冑、近代絵画など、日本の美術史をたどることのできるコレクションとなっています。

東京国立博物館 WEB サイト

<https://www.tnm.jp/>

Twitter

@TNM.PR 東京国立博物館(トーハク)広報室

<https://twitter.com/TNM.PR>

Instagram

@TNM.PR 東京国立博物館(トーハク)広報室

<https://www.instagram.com/tnm/pr/>



文化財活用センター

2018年に国立文化財機構に設置された、文化財活用のためのナショナルセンターです。「文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために、すべての人びとが、考え、参加する社会をつくる」というビジョンを掲げ、「ひとりでも多くの人が文化財に親しむ機会をつくる」ことをミッションとして、さまざまな活動をしています。

文化財活用センター(ぶんかつ)
WEB サイト

<https://cpcp.nich.go.jp/>

Twitter

@cpcp.nich ぶんかつ【文化財活用センター】

<https://twitter.com/cpcp.nich>

Instagram

@cpcp.nich ぶんかつ【文化財活用センター】

<https://www.instagram.com/cpcp.nich/>

◇ご取材・画像のお申込み◇

≪デジタル法隆寺宝物館≫ 広報事務局
(共同 PR 内)担当:三井

E-mail: digitalhoryuji2023-pr@kyodo-pr.co.jp

TEL: 03-6264-2382 FAX: 0120-653-545

◇本展示についてのお問い合わせ◇

国立文化財機構 文化財活用センター 企画担当

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館東洋館5階

E-mail: cpcp@nich.go.jp TEL: 03-5834-2856(直通) FAX: 03-5834-2857